【問題提起】第 14 分科会

施設介護分科会問題提起

運営委員　　今澤　増男（石川民医労）
小形　亮子（北海道勤医労在宅支部）
寺田　　雄（東京民医労健和会支部）
助言者　　曽我　千春（金沢星稜大学　経済学部教授）

介護施設の実態に合わない職員体制は、介護労働者に「休日・休暇、休憩が取れない」といった労働環境を強いるだけでなく、ゆっくりと利用者に寄り添った介護ができないといった問題も引き起こしています。また、施設から在宅へという誘導の下で、サービス付き高齢者向け住宅などが軽度者の受け皿にされる中で、施設介護のあり方が問われています。

制度の見直しによって、医療依存度の高い利用者や認知症の利用者に重点化する一方で、介護の質が保てない、あるいは利用者の真のニーズに応えられないといった状況が増えています。介護現場で利用者と向き合い、介護を実践している私たち介護労働者が、専門的な見地からこの問題を考え、あるべき施設介護の姿を提唱していく必要があります。

施設における介護の「難しさ」「やりがい」、制度の「問題点」等、日々の実践に基づいたレポートを提出し、施設介護のあり方を話し合いましょう。

【施設レポート課題】

・施設介護の専門性（援助技術・支援などに関する実践例）
・日常での実践で悩んでいること、インシデント・アクシデントなど
・介護労働者の労働安全衛生活動（例：腰痛予防・ノーリフトなど）
・制度見直しを受けての問題・対応事例について